

# 大学における オンライン教育の現状と展望

2021年7月3日（土） 13:30～17:00

オンライン開催（Zoomウェビナー使用）

[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_Fvt\\_CXrIRsa42MEmg4diAg](https://zoom.us/webinar/register/WN_Fvt_CXrIRsa42MEmg4diAg)



URLまたはQRコードからご登録し、入室してください。  
13:10から入室可。入退室自由・参加費無料。

## プログラム&登壇者

1. 2020年度の総括と今後の展望（学習面を中心に）  
三尾 忠男（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）
2. オンライン学習下における学生のメンタルヘルス  
堀 正士（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）
3. 資格関連科目におけるオンライン授業の教育効果について  
雪嶋 宏一（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）
4. 大学のオンライン授業における  
「つながる学び・広がる学び」の今とこれから  
村上 正行（大阪大学全学教育推進機構 教授）  
岸 磨貴子（明治大学国際日本学部 准教授）

挨拶・司会：和田 敦彦（早稲田大学教育総合研究所所長）、佐藤 隆之（早稲田大学教育総合研究所副所長）

早稲田大学教育総合研究所 教育最前線講演会シリーズ32  
大学におけるオンライン教育の現状と展望

【講演概要】

本講演会は、2020年度よりオンライン教育が大規模に導入されることになった大学教育の現状を把握し、ウィズコロナ、ポストコロナにおける教育のあり方を展望することを主たる目的とする。

「大学におけるオンライン教育の現状と展望」は、長いスパンでの検討を要する大きなテーマである。早稲田大学教育・総合科学学術院では、オンライン教育実践の検証・記録及び、十分なエビデンスに基づいた新たな教育の構築・提案を目的として、「オンライン教育調査・研究グループ」が立ち上げられ、検討を継続していくことになっている。教育総合研究所は、その活動をサポートする一環として、研究所主催の教育最前線講演会を活用する計画を立てている。

初回にあたる本講演会では、同グループのメンバーに、学習面と生活面の両面から2020年度のオンライン教育の課題や可能性について報告していただく。また、大学のオンライン教育に詳しい専門家をお招きし、他大学での取り組みや、オンライン教育の理論と実践に関わる情報や知見を提供していただく。

なお、本講演会では大学におけるオンライン教育を扱うが、大学のみならず、広く現職教員、教育関係者、学生、一般の方々に向けた企画にしてゆきたい。オンライン教育の方法や評価は初等・中等教育に共通するところも多く、今後の連携も視野に入れ、現場の先生方や教育関係者の参加も期待したい。高等教育のニューノーマルを模索する取り組みであることから、学生や一般の方々の意見や要望に応えることも重要であろう。多様な立場から新しい大学教育について考え、議論する機会とする。

《講演会プログラム》

日時：2021年7月3日（土）13:30～17:00

会場：zoomウェビナーによるオンライン開催

講演

提案1. 三尾 忠男 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）

提案2. 堀 正士 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）

提案3. 雪嶋 宏一 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）

提案4. 村上 正行 氏（大阪大学全学教育推進機構 教授）

岸 磨貴子 氏（明治大学国際日本学部 准教授）

--- 休憩 ---

質疑応答・討論

挨拶・司会 和田 敦彦 氏（早稲田大学教育総合研究所 所長 / 教育・総合科学学術院 教授）  
佐藤 隆之 氏（早稲田大学教育総合研究所 副所長 / 教育・総合科学学術院 教授）

## 1. 2020年度の総括と今後の展望（学習面を中心に）

三尾 忠男 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）

突然のフル・デジタル化によって学習環境が激変しました。一方、学校を含む社会のDXも加速しています。授業について、本学公表の学生・教員へのアンケート調査結果と、大学教員として担当した科目運営を通して、見えてきたオンラインでの学習への課題を報告し、広く議論を期待したい。ICTの教育活用を専門とする立場から、あえて学習環境の多様さと課題、面接（対面）授業とのアクティビティの比較へ言及を試みる。

## 2. オンライン学習下における学生のメンタルヘルス

堀 正士 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）

この1年あまり学生たちはコロナ禍という未体験かつ慢性の環境ストレス下に置かれ、様々な苦勞を強いられてきた。学習面でも、これまでほとんど体験したことのないオンライン授業に適応しなければならず、特に新生は入学時のイニシエーションもない中「大学に入った」と言う実感もないまま、次々に出される課題をひたすらこなす1年であった。その結果、心身の不調をきたす学生が例年より多く見られ、学生相談の現場ではその対応に追われている。今回は、主に学生相談の現場からの報告を中心に、オンライン学習が学生たちのメンタルヘルスに与える影響について解説する。

## 3. 資格関連科目におけるオンライン授業の教育効果について

雪嶋 宏一 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）

コロナ禍の緊急事態の中で始まった2020年度の授業は、春学期が全面オンライン授業となり、秋学期はゼミを除いてオンライン授業が継続された。ほとんどの教員・学生にとっては初めてのオンライン授業であり、双方共に環境も整わず大変不慣れな出発となった。幸いにも、2020年度から稼働が決まっていたMoodleをベースとしたLMSはオンライン授業に大きな役割を果たした。とりわけ、5-6限に設定されている資格関連授業では、従来受講者が減少傾向にあったが、オンデマンドの採用で時間的制約が緩和されたため受講者が増加した。本発表では6限の授業を受講者がどのようにオンデマンドで学習していたのかを、アクセス・ログと課題レポートの質および担当講師の所感を基にして、その教育効果について考察する。

## 4. 大学のオンライン授業における「つながる学び・広がる学び」の今とこれから

村上 正行 氏（大阪大学全学教育推進機構 教授）

岸 磨貴子 氏（明治大学国際日本学部 准教授）

コロナ禍における高等教育の授業のオンライン化は、ある意味で、教育の転換期となった。授業のオンライン化について、初期の段階では「仕方なく」ではじまった雰囲気もあったが、オンライン授業の経験を教職員および学生ともに積み重ねていく中で、その意義や成果を実感することができた。同時に、学習の自己調整、コミュニティ形成など解決すべき課題も多く残っている。

そこで、本講演では、大阪大学でオンライン授業に関する支援を行い、多くの大学で研修などを行っている村上が、大学におけるオンライン授業の実際、アンケート結果などに基づいて成果と課題について発表する。次に、学生の学習・発達を「エージェンシー」の観点から研究する岸が、自ら取り組む実践事例とその分析結果を紹介する。本講演では、リアルタイムオンラインの講演である利点をいかして、村上と岸および参加者との対話的な講演を行う予定である。